

第3回こどもはぐくみ推進本部会議録（要旨）

開催日時	令和8年2月2日（月）15:00～16:00
場所	真庭市役所 本庁舎 応接室
出席者	本部長（太田市長）、副本部長（伊藤副市長）、（三ツ教育長）、危機管理監（今石）、政策推進監（牧）、総合政策部長（木村）、総務部長（行安）、生活環境部長（金谷）、健康福祉部長（樋口）、健康福祉次長（神庭）、建設部長（川端）、会計管理者（武村）、蒜山振興局長（南）、北房振興局長（三浦）、落合振興局長（大塚）、勝山振興局長（谷岡）、美甘振興局長（児玉）、湯原振興局長（佐山）、消防長（大美）、議会事務局長（杉山）、教育次長（浅野）、湯原温泉病院事務部長（西本）
事務局等	子育て支援課（広岡、渡辺、二宗、水島）
議事内容	<p>《報告事項》</p> <p>① こどもはぐくみ応援プロジェクト 2025 事業実績見込について 資料 1</p> <p>《協議事項》</p> <p>① こどもはぐくみ応援プロジェクト 2026 のとりまとめについて 資料 2 資料 3</p> <p>② 来年度のこどもはぐくみ推進本部会議での検討課題について 資料 4 資料 5</p>
冒頭の事項	<p>本部長（太田市長）：人口減少対策を最大の課題として取り組む内の1つでもあり、<u>こどもを個人として尊重するという意味で1つの大きな課題。真庭に住んでいる人が強制ではなく産む自由、産み育てることをより安心してしやすい条件作りをする。</u>子育ての主体は親だが、行政として産み育てやすい条件作りをするということを大きな課題として取り込んでいく。<u>自分の家庭だけで子育てをするようなことではなく、それぞれの家で育ちあいをしながら、地域の中で育ていく。真庭の良さもそのなかで知ってもらい、視野を広げてもらう。健康という点で母体の保護、こどもの健診の充実、医療条件がいいのものに等こどもをまんなかにおいた、尊重を大前提にした政策を取っていく</u>ということで、今までの到達点を確認し、今後の進め方を話してほしい。</p>
報告事項	<p>事務局：資料1に基づき、今年度の新規事業について、実績報告や課題改善点なども含めて報告をお願いしたい。</p> <p>健康福祉部長：5P①「保育所等への給食食材費の助成」は交付金を財源にしながら公立園については財源充当、<u>私立園について物価高騰の点から助成をしている。</u>②「妊婦等に対する遠方への医療機関への移動支援」は国からの支援メニュー。県からの上乗せも活用しながら支援をしている。③「ひとり親家庭への養育費確保支援」は養育費確保にかかる支援をする。6P①「<u>子ども園等の再編整備促進</u>」、<u>久世第二子ども園（仮称）が着工し進んでいるところ。</u>今年度、子ども園、保育園等の施設の整備計画の策定を進めている。その計画にのっとり来年度進めていく。②「<u>園庭で遊ぼう整備事業</u>」について、<u>従来は園庭の休日開放はしていなかったが、必要な施設の整備等も含め市内7つの公立園を4月1日から開放してこどもたちの居場所、休日の遊び場として従来あるものを活用して取り組んでいる。</u>7P②「<u>こどもはぐくみ応援事業</u>」は拡充。<u>こどもはぐくみ応援PJも3年目を迎え、毎年度こどもまんなかまつりを実施。</u>今年度の目玉は夏の猛暑</p>
① こどもはぐくみ応援プロジェクト2025事業実績見込について 資料 1	

の中、公共施設を活用したこどもの居場所を試験的に実施した。その成果もあり来年度の事業で公共施設を活用してできるだけ、子どもたちの居場所を作っていくことで進めている。

事務局：産業観光部は記載のとおり、「女性キャリア開発調査事業」などは来年度に向け新たに施策としてあげている。

危機管理監：6P④「地域防災力育成強化事業」は真庭市防災講座（ジュニア防災教育）として、園や小学校・中学校合わせて 15 回開催。各階層における防災の知識、避難訓練の実施における支援を中心にし、来年度も実施する。

生活環境部長：6P⑧「北町公園あそび場整備」ということで、やまびこスタジアムにあった人工芝を活用して北町の体育館の跡地を整備した。いろいろな形で自由に遊んで使ってもらいたい。1 月末には整備が大体完了。今後、背の低いフェンスを設置して安全を確保していく。

教育次長：9 P④⑤拡充「教育魅力化推進事業（高校魅力化推進）」は、今年度から蒜山校地に 1 名郷育魅力化コーディネーターを配置し、地域と高校生を繋ぐ活動をしている。地域だけでなく高校生が夏休みに川上小、八束小の児童たちに英語を教えるなどの活動にまで繋がってきている。先日キャンプを実施し、地元八束の児童が高校生との交流を図った。地元高校の魅力を子どもたちに伝える役割をしている。そのほか高大連携、海外短期留学なども視点を変えて出口に繋がるようしていきたい。来年も新たに PR サイトの運営等を行いたいと考えている。

消防長：6P⑩「こども防火管理者講習会」で、小学 3 年生以上を対象に防火管理として座学、体験学習を実施。消防設備、避難経路を学ぶということを目的にしている。
⑪「こども消防士育成プロジェクト」は 5 歳児以上を対象に火災とか各種災害の危険性を園の方へ出向いて講習会を実施している。どちらの事業も防災教育は、幼少期からということを目的に事業実施をしている。

協議事項

- ① こどもはぐみ応援プロジェクト 2026 のとりまとめについて

資料 2 資料 3

事務局：資料 2 の来年度の新規事業拡充事業について、続けて各部長から報告をお願いしたい。

生活環境部長：11P①「若者・青少年支援」は、若者・青少年の相談窓口を拡充と
うか、今は民間、NPO 団体でやっていただいている。それを委託で市役所に足を運ばない方もいらっしゃる中で、そういう方々に近い NPO や団体の方に第 1 次の相談をやっていただく。それぞれに連携を取りながら必要な対応を、専門のところに引き継いでいく形がいいのかと思い、始める。14P③「ロールモデルづくり」。一般質問にもあったが、ロールモデルが不足していることもあり、高校生等が将来の自分の進路を考える機会ということでワークショップや、市民に向けてこのような方がいるとお知らせしていきたい。④「鉄道乗り方教室事業」は、JR の利用促進のため、子どもたちに鉄道の乗り方を教えて、移動手段として鉄道利用の機会を増やそうということで JR の協力を得て、募集型、出前講座型の教室をやりたい。⑦「芸術アウトリーチ事業」は拡充をする。小中学生を対象に音楽やダンス、狂言等新しいものも取り入れながらやる。芸術への関心を深める体験をしてもらい感性豊かな子どもたちを育てていきたい。

健康福祉部長：13P①。「妊婦等に対する遠方の医療機関への移動支援」、今年度は通院、分娩についてだったが、来年度は拡充し、不妊・不育治療も対象にする。不

妊・不育治療ができる医療機関が市内になく、その通院にかかる移動費用の部分を助成する。14P⑥「こどもはぐくみ応援事業」では、こどもの居場所というところで、今年度県のバックアップ事業の予算の活用をして、公共施設を使った居場所をつくる取り組みを進めていく。情報発信が非常に重要視をされているのでこどもはぐくみくらぶを活用しながらインフルエンサーからの発信、動画作成も進める。子育て世代をターゲットにしながら情報発信も含め行政だけでなく市民の力を借りながらやっていきたい。

総合政策部長：14P①「こどもまんなか社会創造事業」ということで、こどもを個人として尊重する社会を作ろうということで、こどもの権利に関する条例の制定を目指して、複数年かけてやっていく。令和8年度はそれを作る土壌づくりと種まきとして、いろんなワークショップ、実態把握などをやっていく。⑤「フューチャーデザインプロジェクト事業」は若者の地域イベント等への参加をしっかりと促していこうという事業。まにこいんを活用してやっていこうと考えている。

政策推進監：14P②「高校サテライトキャンパス推進事業」を久世校地で実施する。市内高校全体の魅力化を考える中でそこを共同で使って社会課題の解決のためのワークショップ、大学進学とか就職のためのスキルアップなどを実施予定。産業政策と連携しながら進めていきたい。

建設部長：14P⑧「空き家活用推進事業」。こどものいる世帯については1人当たり5万円追加し経済的な面で応援していく。

教育次長：14P⑨「放課後こども教室事業」では様々な地域で屋外屋内でこどもたちに体験活動を通じた学びとか多世代の大人との交流を提供してきた。来年も事業拡充し、多くの地域で体験・交流の機会を作っていきたい。

事務局：資料2を基に、毎年度作成している「こどもはぐくみ応援プロジェクト」の令和8年度版の冊子案は資料3のとおり。冊子案は記者会見や委員会の資料に使っていく。質問等はあるか。

蒜山振興局長：「妊婦等に対する遠方の医療機関への移動支援」について、蒜山の場合は倉吉に通院されているが、そっち方面も助成がある認識でよいか。

健康福祉部次長：米子に通われる方もいる。ただし60分以上等時間の規定があるので、それに該当する方であれば県外も対象。

本部長（太田市長）：4月1日からの園庭開放7園について宣伝した方がいいのでは。まだ十分浸透してない。その辺はどのように考えているか。

健康福祉部長：基本的には今整備の方は終わっている。4月1日で使えることについて事前の広報については話を進めてやっていく。MITや広報紙、はぐくみくらぶのインスタも活用していく。

本部長（太田市長）：日曜、祝日限定か？

健康福祉部長：そのとおり。

本部長（太田市長）：こどもの遊び場が一覧で分かるようなものはあるか。

事務局：今年度子育て支援課でマップにまとめて発行した。そちらに園開放は載っていないので、リニューアルしていく予定。

本部長（太田市長）：園開放を入れると日・祝だけけど7つ遊び場が増える。結構増える。地域バランスはどうなっているか。

	<p>事務局：この間のはぐみくらぶと市長との座談会での発言があったと思うが、やはり<u>蒜山地域の遊び場はよそに比べると比較的少ない</u>と思われる。</p> <p>本部長（太田市長）：その辺、全体見ながら安心して遊べるところ等を考えてほしい。学童について、国の補助金の関係もあるが、できるだけ多くのこどもを入れる。クラブによって基準が違うが、今後どうしていくのか。働く権利の補助、収入面からの労働力確保、働く意欲のある人には働いてもらえるような条件整備は大事。その辺り産業と一緒に考えてもらいたい。全体数が減っているから、一定増やさないと経営もしんどいと思うが、そのあたりどうか。</p> <p>子育て支援課長：一部には希望するお子さんが全部入れないクラブがある。それはキャパの問題。近隣の児童クラブの方で受け入れて、なんとか回している。</p> <p>本部長（太田市長）：全体のこどもが減っているのにキャパがいっぱいなのが分からない。蒜山とか気になっている。今後の課題。学童もどうしていくか検討していきましょう。</p>
<p>② 来年度のこどもはぐみ推進本部会議での検討課題について</p> <p>資料 4 資料 5</p>	<p>事務局：資料 4 の 39～54P 今年度岡山県の少子化対策に挑戦する市町村バックアップを活用して事業を検討した結果。この事業の中で整理した 3 つの課題要因に対して令和 8 年度新規・拡充あわせて 8 事業を実施することとなった。来年度、岡山県の市町村バックアップ事業補助金を、「芸術アウトリーチ事業」、「フューチャーデザインプロジェクト事業」、「真庭市大学生等関係人口推進事業」、「妊婦等に対する遠方の医療機関への移動支援事業」、「公共施設を活用したこどもの遊び場・居場所づくり」の 5 事業で活用予定。公共施設を活用したこどもの遊び場・居場所づくりでは、まにわフリー Wi-Fi 終了後も中高生が Wi-Fi を利用できるよう、振興局庁舎や図書館に整備する Wi-Fi の財源に活用する。</p> <p>来年度のこどもはぐみ推進本部会議での検討課題について、1 月 23 日に開催したマトリクス会議で今後のマトリクス会議で深堀するテーマとして、これまでも検討してきた「こどもの居場所」、「情報発信」に加えて「こどもの意見聴取と政策への反映」の 3 つについて、関係課長に意見をいただきまとめたものが資料 5 の 55～57P。資料 5 に沿い、皆様方からご意見をいただきたい。特に来年度、こどもまんなかまちづくりの運動を進めていくにあたって、各部局が連携をしながら、こどもの意見を吸い上げていくことが必要になってくる。各部局の所管業務の中で、意見の聴取、情報発信、居場所などで既存の事業でこども・若者・子育て世帯に影響があり関係がありそうなもの、また、各部局が連携を図ることで、効果的に進めていけるような事業があれば意見をお願いしたい。</p> <p>総務部長：総務部に関しては特に新規事業の予定はないが、<u>小さいこどもの頃からジェンダーフリーや全体的にやさしい心を育てるようなことを少しずつでもやっていけば、結果的にそれぞれの人権を尊重するような人になると思うので、地道なことも大変重要ではないか</u>と考える。</p> <p>危機管理監：部局の括りでという話になれば、危機管理としては<u>小さいこどものころから防災意識などの醸成が必要なので学校などの場を通じて地道に教育をしていただきたい。</u></p> <p>政策推進監：来年度公共施設の基本方針で久世校地にそういった施設の検討をしていくということが決まっている。久世校地の方では高校サテライトキャンパス等で、<u>小中高のこどもたちの居場所という取り組みを考えいろいろなところと連携してやろう</u>と思っている。</p>

生活環境部長：若者や青年のところの相談、相談だけじゃなく普段からの居場所みたいなもの。その中で出た意見を踏まえ NPO 団体等の意見をいただくようなことも非常に有効かと思う。中学校の部活動地域移行の中では地域の方と子どもたちの接する機会が増える。中学生の皆さんがどのような考えを持っているのか、地域の人だけに限らず真庭のどの世代がどのように思っているか聞く機会があればと思う。

健康福祉部長：こども家庭庁ができ、こども基本法も含めてこどもの意見表明の場をしっかりと作って行ってことで国の方も積極的に動いている。市も、従来から中高生の意見を色々聞く場を作ってきている。小学生も含めて小さな年齢の子にも必要だろうと思っている。その場をどう形作っていくか。昨年度議会と視察にいった目黒区では行政の各計画を作る場合は、必ずこどもの意見を聞くということにはなっているよう。子どもたちが少しでも行政に参加できるとか自分たちが提案したものが何か形になっていく、形にならなかつたら、なぜ形にならないかということをつかりやすい形で話をしていくことは必要。情報発信は庁内横断的にプッシュ型も含めて情報を届けていく必要がある。居場所については新しいものを作るのではなく、できるだけ今あるものを活用しながら、そういう場を少しずつ形を作っていけるように保護者の意見、子どもたちの意見を吸い上げるのに、目安箱的な意見聴取の仕方もあると思っている。

健康福祉次長：こども家庭センターでは広くこどもの意見を聞く機会は少ないが、困っている家庭や困っているこどもの声を聞くところでは、すぐく身近に普段から話をしている。まずその家庭で困っていることをどうするかは、監護する立場の大人の意見をしっかりと聞くが、こどもが何に困っていて、この家庭の中でどうして欲しいのかを聞くこともしっかりと大切にしていくようにという話をしている。そういう目線でこどもの声を聞くと、大人の視点とはまた違ったこどもの声を聞けることが多くある。こどもが思うこどもが見る大人社会に対してのこどもの見方、意見を聞くと、ちょっと目からの鱗のような話とかアイデアが出てきたりするかもしれないと思っている。こどもの意見をしっかりと聞く手法を考えていけたら。

議会事務局長：今夏にこどもの居場所として 4 階を夏のあそび場で解放して使っていたが、想定していた以上に大勢の方が来場され議員皆さんそれを見てびっくりされていた。ニーズがあることを感じ、それ以降いろいろな場面で議場を使い、4 階を開放していったらどうかということで、自習室としての解放を始めている。その中で来ていただいた人たちの意見を聞くことがまだできていないことが課題。今後検討される。議会としては夏の遊び場で、議会をどういう風に見られているかのような意見が欲しかった。意見聴取の面で、子どもたちがとても楽しく遊んでいるのを見て、遊びを通じて何らか言葉にはできないけれど、子どもたちがどういうニーズがあるかは把握できることがあるのではと思ったことがある。遊びを通じて、子どもたちの生の声がある程度聞くことは可能ではと。実際どういうスキルがいるのか勉強する必要があるとは思いますが、直接こどもの意見を聞くこともありかと思う。

消防長：消防本部でも幼少期の教育が大事だということで、子どもたちへの講習をしている。引き続き実施をし、最終的には火災を起こさない、予防に興味を持っていただきたい。いざ災害に合った時にはしっかりと行動して、自分の身を自分で守るところを落とし込んでいければと思っている。

教育次長：こどもの意見をいろいろな部署で聞いていただいている。こどもは我々の思っている以上に大人に対する忖度をしていると思うこともある。本当にこどもが自由に意見を

表明する場をどういう風に設定したらいいのかは、我々も非常に悩ましいところ。共生社会へのあり方、人権などのテーマにしても、我々が話を設定すると二極対抗というか善悪で分けたような話になってしまって、少しすり合わせるような議論というのはなかなか子どもたちと一緒にやっていくのは難しいと感じることがある。子どもがきちんと考えながら、議論する機会を備えて作ってあげたらと考えている。放課後子ども教室などで、休憩中にそういったこともできたらいいと考えている。我々としては子どもの本当に素直な感じたままの意見を吸い上げてあげたらと思う。

建設部長：ポケットパーク事業を推進しているがいろいろな話はあるが、2 番目がない。2 個目のポケットパークができるよう、子どもの遊びについて取り組んでいきたい。

会計管理者：外の方が話していたことだが、真庭市は情報発信がうまくいっていない。もっと広く、外の方に分かりやすいような情報発信が必要だが、ホームページを見ていても潜っていないと必要な情報にたどり着けない。知りたいことがすぐ分かる情報配信ができていたらいいのかなと思う。

総合政策部長：総合戦略の中で子どもをまんなかにした子どもの権利を尊重する社会を作っていくということで明確に示している。そういった中で来年度子どもまんなか社会創造事業をスタートさせ、しっかり子どもの意見を聞いていかないといけない。聞きっぱなしではなくて、それを受けて大人がどうするか、色々考えるところがあると思う。大人側の意識醸成も併せて、来年度から 3 年やっていく。最終的に子どもの権利に関する条例の策定を目指す。真庭の場合、先進的に取り組む川崎市等とは、やはり土壌、規模、住民そういったものが全く異なっている。そういったところはしっかり真庭に合ったやり方でやっていく。

蒜山振興局長：子どもの意見を聞くとしたとき、子どもってそんなに表現は上手じゃないと思う。そういう時、大人がどういう風に感じ取るかが非常に難しい。57P「子どもの居場所づくり」とあるが、子どもの居場所は昔たくさんあった。居場所とは何なのか。場所なのか。建物なのか。組織を作ることなのか。いろいろなこと考えた時に子どもの居場所というのは自分が生きていける場所なのかと思う。居場所は自分を肯定してくれる、簡単に言えば褒めてくれる場所。少しずれているかもしれないが、このようなことを思ったりした。よく考えないといけない。行政側で勝手な組織を作ったり、場所や建物を作ったりしてしまわないかなという風に思って心配するところもある。しっかりみんなで話をした方がいいと思う。

落合振興局長：なかなか子どもたちから意見を聞く機会がない中、落合中学校の 2 年生が美術の授業の中で、2 年生 110 人が 3~4 人のグループに分かれて、落合振興局の中の空きスペースを活用してどんなことが考えられるか？というようなテーマで模型を作ってくれた。落合振興局に 2 月 16 日まで展示をしている。その中で子どもたちがグループで考えた中に本当にいろいろなアイデアが詰まっている。コンビニが欲しいとかカフェが欲しいとか、自動販売機で飲み物買って、振興局の空きスペースで飲みたい。図書館の外にテーブルを置いて、カフェ飲みながら友達と一緒に喋ったり遊んだり、話したりしたい。アナログのボードゲームを置いたらいいんじゃないかという意見等をたくさんいただいた。そういった中に、子どもたちの意見が結構詰まっていると思う。できればその中から 1 つでも本当にできたらいいと考えているところ。美術授業とは言いながら、意見を聴取してくれているようなこともある。機会を活かしていきたい。

湯原振興局長：湯原では愛育委員と栄養ボランティアの中で子ども食堂をボランティアと

してやっていただいている。部活動の地域移行を今進めているが、実は湯原にはバスケットボール部がなくて二川のこどもたちが週に2〜3回だと思うが津山のバスケットクラブチームと一緒に津山で練習を行っている。女子は今度倉吉の方に行くとのことで、両方クラブチームに入ると聞いている。湯原からは出たくないが、やりたいことができないから、親御さんが送迎をして週何回も通っている。そういう現実が起こっていることと、県の選抜にも選ばれ親御さんも非常に喜ばれていた。こどもたちの居場所ややりたいことをどう我々が担保していくかを考えた事例であった。

事務局：来年度に向け、ご意見を吸い上げながら進めていく。

本部長（太田市長）：真庭市は住宅事情などを考えると経済的にこども4人はしんどいかもしれないが3人でも4人でも都市に比べたら産み育てられる条件があると思う。そここのところをもう少し支援することで増やす方法はないか。もちろん希望者にといいことで強制する必要はない。真庭が好きで住みたいが、働く場所の問題など。農業林業でも所得で1000万円行くこともある。そういう現実的なことも知ってもらう必要がある。実際、若い世代がこどもを産み育てることをどう考えているのか。客観的に見れば昔に比べてものすごく条件がいい。子育てすることは楽しいこと。次のその世代を作っていくことが楽しいことを感じているのかどうなのか。それとも価値観が違うからなのか。社会そのものが大変だと言っているようなこともあると思う。そういう実態が私には分からない。その辺をもう少し知りたい。

教育長（三ツ教育長）：色々思うこともある。さっき居場所の話があったが私はそれは本当に大事だと思う。居場所は決して空間ではないしスペースでもないと思う。結局そこは「居て良い場所」。だから「認められる場所」で、「ありのままで存在が肯定される場所」。やはりその居場所にいる大人や周りの人間がそうであるということが、基本的には大事なんだと思う。同時にこどもはご機嫌な大人と一緒にいるほうが楽しい。大人もこどもと一緒に楽しめることをうまくやっていかないと、活動量も増えていかないと。条例という条文を作ることになりがちだが、むしろこどもたちのやってみたいが応援されて、そこに大人も一緒にいてワイワイやっている姿の中から、これってこどもの権利だよね？というのを見取って拾ってくるようなことを大事にしていくことが、こどもの声を聞くベースなんだと感じている。会議室に集めて意見を聞くのもそうだけど。私も落合に行った。こどもはすごい。書いている内容が。どんなことに惹かれていたか、集合、繋がる、会話する、触れ合う、遊ぶ、関係を深める、交流する、リラックス、楽しいっていう価値をずっと書いている。だから、やはりそういうところをちゃんと見ていくこと、やりたいことをやるのが大事だと思った。

閉会

副本部長（伊藤副市長）：こどもはぐくみ応援プロジェクトについては来年度が4年目。市役所総出で、ここまで築き上げてきた。他の自治体でもここまで子育てとかはぐくみという1つのテーマで整備されたプロジェクト、パッケージ化されたものは本当はないと思う。職員の皆さん方にお礼を言いたい。パッケージは全体を俯瞰しながら、本当に足らざる部分があるか、そこをこれまでは中心的にしてきた。ある程度足らないところは埋められてきた。これからは、それぞれの事業をいかにブラッシュアップしていくか、それが本当これから求められていく。はぐくみの主体は1つには保護者。それから最終的にはやはりこども。そのこどもを本当にどういう意味で主体に位置づけていくか。そういう意味で「意見聴取」という言葉自体があまりどうなのかなと個人的には思っている。意見聴取が第三者的な位

	<p>置付けになってしまう恐れもある。これからは<u>来年のこどもの権利条例を進めていく中では本当の意味でこどもを主体として位置づけて、こどもたちが自分で考えて自分で提案していく、そういう仕組みに仕掛けをしていかないといけない</u>と思っている。それをこれから皆さん方と是非議論していければと思う。<u>今日をきっかけにそれぞれの立場から考えて検討を進めていければ1つのきっかけになるか</u>と思う。よろしく願いたい。</p> <p>本部長（太田市長）：権利、個人など難しいことを言うが、条例もこどもたちも真庭が楽しい、それから子育てする側も楽しい。そういうようなことをするにはどうすればいいのか。その辺も強調したらどうか。難しいことを優しく言いながら。<u>こどもにとっても子育てする側も楽しい、充実、やりたい、そういうようなことを訴えるものになれば。</u></p>
<p><u>確認事項</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもはぐくみ応援プロジェクト 2025 の事業進捗状況について共有した。 ・こどもはぐくみ応援プロジェクト 2026 施策の取りまとめ状況について確認した。 ・来年度に向けた検討事項について意見交換を行った。